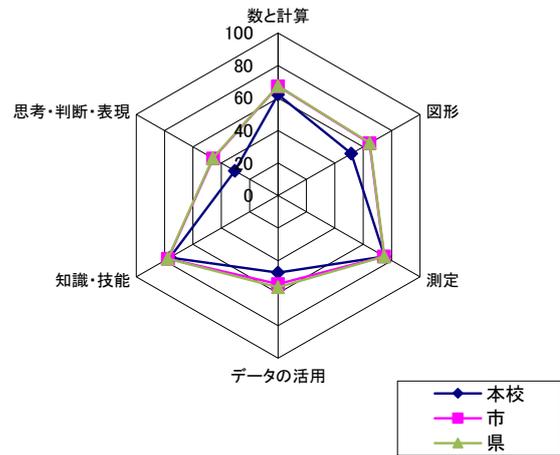


宇都宮市立清原北小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.1	67.3	67.4
	図形	51.6	64.5	64.7
	測定	75.0	74.7	74.9
	データの活用	47.4	54.4	56.4
観点	知識・技能	76.3	77.6	77.8
	思考・判断・表現	30.5	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市・県の平均より低い。</p> <p>○小数のしくみや表し方として正しいものを選ぶ2つの問題の正答率は、100%と89.5%で市や県の平均より高かった。</p> <p>○2桁÷1桁の計算や同分母の真分数同士の計算の正答率は、100%であった。</p> <p>●数量の関係について口を使って正しく表された図を選ぶ問題や、口を使って問題の場面を図を表す問題の正答率が県より10ポイント以上低かった。</p> <p>●式の意味を正しくとらえて言葉で説明する問題や、示された考えをもとに数の相対的な大きさを使って、小数の減法を整数の減法に直して処理する方法を説明する問題の正答率が低かった。</p>	<p>・基礎・基本事項については、朝の学習や家庭学習の中で、計算ドリルやAIドリル等を活用して繰り返し練習を行い、学習内容の更なる定着を図るようにする。</p> <p>・計算の仕方について、形式的に覚えるだけでなく、計算の過程も説明できるようにしていく。</p> <p>・テープ図や数直線、具体物などを用いて数量の関係を表したり、数の処理の仕方を説明する機会を多く設けたりしていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、市・県の平均より低い。</p> <p>●二等辺三角形を作図する問題の正答率は68.4%で、県の平均より16ポイント低かった。</p> <p>●円の性質を考え、コンパスを使って正三角形が作図できることを説明する問題では、正答率が10.5%で、県の平均より22.9ポイント低い。</p>	<p>・コンパスや定規などを使用して作図をする際には、デジタル教科書や実物投影機などのICTを活用して図形の性質を視覚的に捉えながら図形のかき方の指導をしたり、個に応じた丁寧な指導を行ったりしながら作図の仕方の理解が図れるようにする。</p> <p>・話し合い活動などを通して、自分の考えを根拠をもって相手に説明できる力を身に付けさせていく。</p>
測定	<p>平均正答率は、市・県より高い。</p> <p>○身近なものの重さの単位について、正しくないものを選ぶ問題の正答率は89.5%で、県の平均より9.3ポイント高かった。</p> <p>●はかりの目盛りを読みとり、重さを答える問題の正答率は36.8%と県の平均より14.3ポイント下回った。</p>	<p>・朝の学習の時間を利用して、基礎的な問題に繰り返し取り組みませ、基礎基本の定着を図る。</p> <p>・はかりの問題では、身近にあるものの重さを予想したり、さまざまな種類のはかりを用いて目盛りを読む活動を多く取り入れたりすることで、重さの感覚を養っていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市・県の平均より低い。</p> <p>○棒グラフを読み取り、2番目に多かったスポーツを答える問題の正答率は89.5%と高かった。</p> <p>●2つの棒グラフで1目盛りの数が異なることに注意しながら、棒グラフを読み取り、正しいものを選ぶ問題の正答率は5.3%と県の正答率より18.3ポイント下回った。</p>	<p>・社会科や理科など他の教科においても、1目盛りの数に着目したグラフの読み方についての指導を重ね、折れ線グラフや棒グラフの読み取りが正しく身に付けられるようにする。</p>